保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人　まあれ愛恵会
施設名	第二浦和たいよう保育園
報告者（役職）	西山　めぐみ（園長）
住所・連絡先	埼玉県さいたま市浦和区岸町 4－26－23
	電話：　０４８－８２５－７２１１ E-mail：　info@urawa2.marehoikuen.com

○タイトル（保育計画）

運動能力を高める日常の遊びから　運動発表会へ ～幼児期に身につけておきたい３６の基本動作を元に～

○主な助成備品

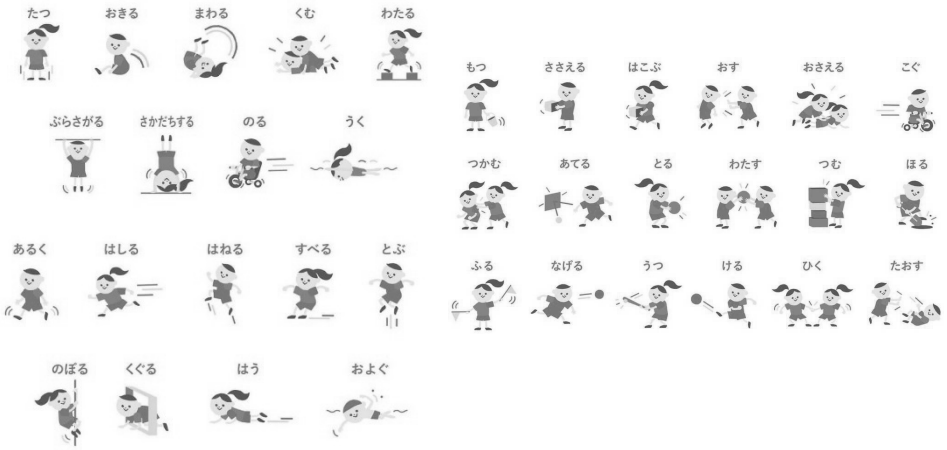
トンネルバス・滑り台・跳び箱・平均台・サッカーゴール・アスレチックマット　等

１．保育計画策定の目的

本園は、埼玉県さいたま市浦和区に、令和 3 年度 8 月に開園した認可保育園である。JR 京浜東北線浦和駅徒歩 5 分の立地で、地上 5 階建てのビルの 2～5 階、0～5 歳児 90 名定員となっている。

浦和駅周辺の再開発が続き、また、文教地区として浦和への転居者が多く、保育園利用家庭の多い地域である。

「駅前型保育所」として、開園時間が 13 時間と長く、また、立地上、ビル型保育園となり、園庭がないため、園舎内遊戯室、屋上テラス、近隣の公園を利用して、保育活動を展開している。開園より年度を重ねていく中で、様々な保育活動の充実を目的とし、「幼児期に身につけておきたい３６の基本動作」を元に、日々の保育活動を計画し、また、保護者参加行事である「運動発表会」の実施を目指して、保育計画を策定した。



２．具体的な実施内容

（１）運動巧技台を用いた保育活動

日々の保育活動の中で、自然と体を動かして楽しめるような保育環境を整えることから意識し、職員研修を用いて、年齢による発達段階の理解から始める。

主に、乳児クラスは、心身の発達が個別の段階を踏むため、一人ひとりの興味関心の心の動きと身体の発達段階を把握し、強制ではなく、生活環境に溶け込む形で、運動巧技台に触れられる環境の設定を心がけた。

すぐに興味を示し挑戦しようとする児、様子を見て保育者の手助けを求める児等、姿はそれぞれであったが、毎日の園生活の中で自然と運動巧技台に触れることで、身体を動かす楽しさを味わう姿が見られるようになった。

（トンネルバス・０歳児）

（跳び箱・アスレチックマット・１歳児）

幼児クラスになると、自分の身体のボディイメージを獲得するようになり、より細かな動きや複雑な協応動作も、試しながら身に付けていく姿がある。

運動活動の環境設定は、一つひとつの巧技台への挑戦を促すこと、恐怖心を持たず、達成した喜びを感じることを目的とし、サーキット形式にして行うことを試みた。

結果、落下等の恐怖心がある児もいるが、一つひとつの巧技台へ果敢に挑戦する姿があり、保育者の手助けを得て、やり切れた時の達成感を味わう姿が見られるようになった。

また、活動を重ねる中で、興味が薄れることもあり、その際は、巧技台の設置の順序を変化させたり、跳び箱や鉄棒の高さを上げたりする等、難易度を変化させることで、更なる挑戦心を引き出せるように心がけた。

（平均台・３歳児）

（サーキット（マット・鉄棒・平均台）４歳児）

（２）ボール遊びの導入から、ドッヂボール・サッカー遊びへの変化

乳児クラスでは、活動の中でボール遊びを取り入れる。年齢によって、大きく関わり方が変化し、０歳児では、予測不能な動きを目で見て楽しみ、自ら触れに行こうと、ハイハイや歩行で追いかける姿があった。１歳児になると、掴んで投げてみようとする姿があり、２歳児になると片手で投げたり、ボールの上に座ってみたり、時には足で蹴ってみたりするなど、身体の様々な部分を使って、ボールに触れる楽しさを味わうようになる。

幼児クラスでは、徐々にルールのある遊びを取り入れるようにし、中当てゲームから導入して、ドッヂボールに段階が上がり、次第に手を使わず、足だけを使ってボールを操ることにも興味を示し、サッカー遊びに興味の方向が変化していく。

（ボール遊び・３歳児・０歳児）

（足を使ってのボール遊び・４歳児）

（サッカー・４歳児・５歳児）

３．その成果と評価

日頃の園生活の中で、自然と身体を動かす楽しみをそれぞれが楽しむようになり、園行事として、運動発表会の企画を立てる。

ねらいは、「日々の保育活動の中で、興味関心を持ち、できるようになった運動遊びを保護者の方に披露し、達成感を味わう」とした。

（かけっこ・全園児）

（サーキット・乳児）

（組体操・４歳児・５歳児）

（サーキット・幼児）

（親子サーキット・乳児）

４．今後の課題と展望

乳児期から幼児期への心身の発達段階の理解を元に、日々の生活の中で、子どもたちの興味関心に沿って、適した環境設定を見極めていくことが大切であると改めて感じた。

環境の設定によって、いかようにも子どもたちの活動の幅を広げていくことが可能であり、そのためにも、年齢ごとの発達段階の知識をしっかりと身に付けていくことも必要である。職員への園内研修や外部研修等を通して、正しい保育知識の習得を心がけたい。

また、今回、導入することができた運動巧技台をきっかけとして、よい充実した運動活動を展開していくと共に、保育の質向上を常に意識し、様々な活動を取り入れた園運営をしていきたい。

以上